

日本の職場における上司から部下へのからかい ——応答の優先組織に関する一考察

Teasing from superiors to subordinates in the Japanese workplace:
A Consideration of the Preference Organization of Responses

高橋亜里沙*
TAKAHASHI Arisa

要旨 からかいに対する応答として、多くの場合は拒否または訂正であるとされている。しかし、日本の職場における上司から部下へのからかいを見ると、上司のからかいに対して部下が拒否または訂正することは、必ずしも優先行為ではないように思われる。本稿では、日本の職場の自然会話での上司からのからかいに対する部下の応答を分析する。そして、優先組織の特徴を踏まえて、事例分析を紹介していく。分析の結果、組織上の特徴を見ると、からかいに対して「受け入れる」では、優先的応答の特徴が見られ、「拒否や訂正」では、非優先的応答の特徴が見られた。

1. はじめに

隣接ペアの第一部分に対する第二部分になり得るものは、すべて等しい地位にはない。応答の中には、優先する応答と、非優先的応答がある。例えば、隣接ペアの第一部分が「誘い」の場合、第二部分における「受諾」が優先する応答で、「拒絶」が非優先的応答となる。そして、Pomerantz (1984) で、優先的応答、非優先的応答には特徴があるとされている。受諾等の優先的応答は、単純な形で行われる。それに対して、非優先的応答の場合は、遅れであったり、前置き等の特徴が伴ったりするのである。一方、「自己卑下」などの場合は、「不同意」が優先的応答で、「同意」が非優先的応答となり、逆の方向に行ったり、相手との関係で優先、非優先の関係が変化したりするという。からかいが隣接ペアの第一部分となるかは本稿では特に問題としない。しかし、からかいとそれに対する応答は、隣接ペアというより“action chains” (Pomerantz, 1978) であると言える。つまり、隣接ペアのように、第一部分が決まった第二部分を要求するのとは違い、からかいに対する応答は決まったものがあるわけではなく、様々である。本稿では、からかいに対する応答で、「受け入れ」、「拒否や訂正」のものだけを見ていく。

Drew (1987) によると、からかいに対する応答のほとんどは、拒否や訂正であるという。この中には、ただ真面目に拒否するだけでなく、笑いながら拒否したり、一度からかいを受け入れたりした後、拒否することも含まれている。そして、からかいの受け手が笑いながら受け入れたり、さらに冗談を言ったりするといったような、からかい手に同調することは稀であると述べている。また、千々岩 (2013) では、あなた知識を用いたからかいが達成されるための4つの条件の1つとして「④あなたがそれを【からかい】として認識し、第二ペア成分の行為スペースで何らかの【反応】(主に【拒否】)をしなければならない。」

* 千葉大学大学院人文公共学府博士後期課程

と述べている。つまり、先行研究では、からかいに対する応答の場合は、「拒否や訂正」が優先的応答で、「受け入れ」が非優先的応答となると言える。ただ、Drew (1987) のデータは、電話や対面での会話、食卓での会話、非公式のセラピーセッション、親戚や友人の家への訪問など、インフォーマルな状況の会話を録音したコーパスから収集したものである。また、千々岩 (2013) のデータは、主に友人同士の雑談である。本稿では、日本の職場における会議や会議前後、ランチにおける会話の録音、録画を行いさらに、分析を行った。これらの会話における上司からのからかいに対する部下の応答に着目したものである。データが異なるため、本稿の研究の目的は、Drew (1987) との比較ではなく、本稿のデータにおける、からかいに対する応答の特徴を説明することである。

本稿ではからかいを「意図的に他者からの反応を引き出そうとする挑発性（攻撃性）と言語的または非言語的に示唆される遊戯性という2つの要素からなるもの」と定義する (Keltner et al, 2001、牧、2009、Haugh, 2014)。しかしこの定義のみでからかいが、からかいではないかを判定するのではなく、相手との関係性・文脈・コンテキスト化の合図をみて総合的に判定することとする。

2. 調査方法及び概要

2.1 フィールドのA社

A社は、創業から調査時点までに、まだ5年も経過しておらず、社員には、社長が以前勤めていた企業の同僚や知り合い、個人的な友人が多くいる、いわゆるベンチャー企業で、業種はITである。20、30代が中心で風通しがよく、からかいのようなユーモアが多く見られるため、A社をフィールドとし、調査を実施した。

後述するように、社内には4つの階層があり、社員以外に大学生等のインターンシップや他社から研修で来ている人もいる。

2.2 データ概要

データ収集は、2019年6月～9月にかけてA社¹⁾の協力を得て行った。本研究で用いるデータは、以下のようにA社におけるランチおよび会議、会議前後の会話を録音・録画したものである。

- ・データ1：2019年6月、A社社内におけるウィークリーミーティング、会議前後の録音・録画、データの時間は56分
- ・データ2：2019年6月、社外のインド料理店で行われたランチの録音、データの時間は32分
- ・データ3：2019年7月、社内におけるランチの録音・録画、データの時間は54分
- ・データ4：2019年9月、社内における朝会の録音・録画、データの時間は36分
- ・データ5：2019年9月、社内におけるデータ1と同様のウィークリーミーティング、会議前後の録音・録画データの時間は64分
- ・データ6：2019年9月、社内で軽食を取っているところの録音・録画、データの時間は20分

また図1は、A社の階層を、表1は、全社員ではないが、からかい発話に出てくる主な調査協力者の背景をまとめたものである。表1からもわかるように、A社の社員は20代や30代前半が中心であり、多くの会話が見られる。

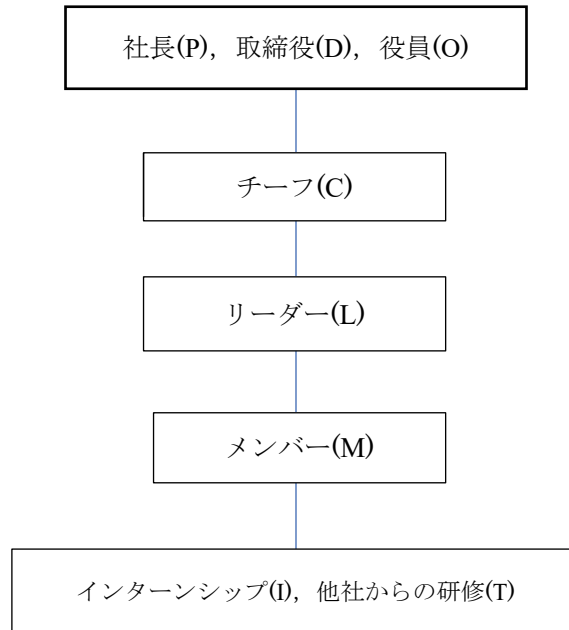


図1 A社における構成員の階層

表1 調査協力者の背景

コード	性別	年齢	職階	在職期間	参加した会話
PM1	男	30代前半	社長	創業時から	データ1、2、3、4、5
DM1	男	30代後半	取締役	創業時から	データ1、5、6
OM1	男	30代後半	役員	約2年半	データ1、4、5、6
CM1	男	30代半ば	チーフ	1年4か月	データ1、2
CM2	男	40代前半	チーフ	約1年	データ1、3
CM3	男	30代半ば	チーフ	約2年半	データ1、4、5、6
LM1	男	30代前半	リーダー	半年	データ1、3、4、5、6
LM2	男	30代前半	リーダー	約2年	データ1、4、5
LM3	男	20代後半	リーダー	約2年	データ1、4、5、6
LM4	男	20代半ば	リーダー	約1年（インターンシップ期間を入れると約3年）	データ1、4、5、6
LF1	女	20代後半	リーダー	約1年半	データ1、4、5、6
MM1	男	30代前半	メンバー	約1年半	データ1、2
MM2	男	20代後半	メンバー	約2年	データ1、2、4、5、6

MM3	男	20代半ば	メンバー	5ヶ月	データ1、2、4、5、6
MM4	男	20代半ば	メンバー	3ヶ月	データ1、2、4、5、6
MM5	男	20代後半	メンバー	約3年	データ1、4、5
MM6	男	20代後半	メンバー	約1年半	データ1、4、5
MM7	男	20代前半	メンバー	1ヶ月	データ4、5、6
MF1	女	20代後半	メンバー	5ヶ月	データ1、2、3、4、5
MF2	女	30代前半	メンバー	3ヶ月	データ1、3、4、5
TM1	男	20代前半	他社からの研修	3ヶ月	データ4、5、6
IF1	女	20代前半 (大学生)	インターンシップ	2ヶ月	データ1

データには、上司から部下へのからかい、部下から上司へのからかい、同僚同士のからかいが見られた。本稿では、「からかい」、特に、上司から部下へのからかいに焦点を当て、分析を行った。本稿で分析を行っているデータは、A社の調査で見られた上司から部下へのからかいのすべてではない。紙幅の関係上、上司のからかいに対する部下の応答の特徴で同じものが複数見られた等により、一部の断片は記載していない。

3. 結果

以下に上司のからかいに対する部下の応答、「受け入れ」、「拒否や訂正」のそれぞれの特徴を述べていく。

3.1 からかいを受け入れる

からかいを受け入れるとは、一緒に楽しんだり、からかいの発言に寄り添ったりするような発言や行為を行うことである。

以下の断片は、本稿のデータにおける、上司のからかいに対して部下がからかいを受け入れている例である。→はからかいの発言を示し、⇒はからかいに対する応答を示している。一度受け入れた後拒否する等、受け入れ以外の行為が続く場合は「受け入れ」に含んでいない。

3.1.1 強い受け入れ（一緒に楽しむ）

からかいを一緒に楽しむというのは、からかい手によるからかいの内容により詳しい内容を付加したり、からかいに対して肯定的な評価を述べたりするものである。以下、各断片の中で使用した記号については、末尾の文字化記号の一覧を参照。

断片1（データ2）

CM1が浮気を疑われる原因となった話の中で

- 01 CM1 : で、こいつらに (0.4) ちょっと俺のアリバイを
02 ちゃん[と
03 複数 : [hhhh
04 (.)
→05 CM1 : 暴けっつって言ったのにこいつら全然
06 複数 : hhh
→07 CM1 : 全然こいつら
⇒08 MM2 : hhhけっこうおもしろかつ[たっすねh
→09 CM1 : [サポートしてくれないh
10 複数 : hhh

断片1では、上司のCM1が部下のMM1、MM2、MM3に対して「全然こいつらサポートしてくれない」とからかっている。ここで「全然サポートしてくれない」は攻撃的な要素があるが、笑いや「全然こいつら」の繰り返し等から遊戯性があり、からかいとなっている。07行目の「全然こいつら」の後で、MM2は8行目で「けっこうおもしろかった」と笑いを伴いながら肯定的な評価を挟み、楽しんでいる。

そして、この強い受け入れの中でも、最も強いものが以下の形のような、からかいにおける攻撃性をよりアップグレード (Pomerantz, 1984) させるものである。

断片 2 (データ 5)

CM1がいない理由が、CM1の子供の関係で休みだと判明し、PM1が遊んでいると思っ
ていないと弁解した後

- 01 LM2 : 顔が遊んでるっ [てh
⇒02 LM3 : [¥顔が° そうっす° 散らかってるってh¥
03 LM2 : ↑あ,
04 (1.0)
05 PM1 : ¥誰が? ¥
06 LM3 : 僕ですh
07 (1.2)
08 PM1 : ↑散らかってはないでしょh
09 LM3 : あ, [(h) (h) そう. あ, すみませんなんか
10 複数 : [h[hhh
11 LF1 : [散らかってるh
→12 PM1 : わりと(h)凝縮されてるh
13 複数 : hhh[h
⇒14 LM3 : [¥真ん中よりですねh¥

1 行目で上司のLM2（からかいの受け手であるLM3とはリーダーという同じ役職であるが、LM2の方が年上）は、この断片の前でPM1が発していた「遊んでると思っていない」

の「遊んでる」を使って「(LM3の) 顔が遊んでるって」とLM3をからかう。それに対して、LM3は「顔が散らかってる」と「遊んでる」より攻撃性がアップグレードされている「散らかってる」を用いて、LM2のからかいに同調し、一緒に楽しんでいる。さらに、8行目のPM1による「散らかってはない」という否定からの12行目の「凝縮されてる」というからかい発話が見られる。それに対して、14行目で「真ん中より」という12行目の「凝縮されている」をより具体的に述べる、つまり内容を付加することでからかいに同調しているのである。

3.1.2 弱い受け入れ（繰り返し）

上司のからかいに対して、同調して一緒に遊ぶほど強い受け入れではないが、からかいを受け入れる方法として、からかい発話で用いられた言葉の一部を繰り返し、からかいを受け入れるコメントを付加するというものがある。

断片3（データ1）

誰かが窓のブラインドを下げるようにMM5に指摘した後の発話

- 01 MM5：はい、(0.9)↑あ閉めたい感じっすね (0.6)
 02 ちょっと待ってください↑ね
 03 (2.5)
 →04 PM1：¥しめ↑んのお前(1.5)せっかく開けたのに¥=
 ⇒05 MM5：>え((眉を上げ驚いた表情)), せっかく開けたんですか？<hh
 06 PM1：((うなづく))°うん°
 ⇒07 MM5：[それはちょっとあれかも。
 08 PM1：[((左手を左右に2回ほどふる))

断片3において、4行目で上司のPM1は、窓のブラインドを下げようとしたMM5に対して「せっかく開けたのに」とMM5をからかう。ここで、ブラインドを下げようとしているMM5にとって「せっかく（ブラインドを上げて窓を）開けたのに」は攻撃的な言葉となっている。しかし笑顔で言われることで遊びであるということが加わり、からかう側が、からかいを意図していると見て取れる。それに対して、5行目でMM5は、4行目のからかいで述べられた「せっかく開けた」を繰り返し、終助詞の「か」を加えることで、PM1に対して確認を求めている。そしてその後7行目でPM1に配慮するようなコメントを加えている。

断片4（データ3）

PM1は母親のことを「ババア」や「おばはん」と呼んでいたという話、そしてMF2が将来子供にそういう風に言われないうにしたいと語った後

- 01 PM1：ぜったい言われるよh
 02 (2.0)

- 03 PM1 : 𠄎いいーいいババアになりそうだよ ((左手の人差し指でMF2を指す))𠄎
 ⇒04 MF2 : いいババア(h) うん(h) ありがとう [hh((右手で口を隠す))=
 05 CM2 : [hh
 ⇒06 MF2 : =((右手で口を隠しながら)) ありがとうhh

断片4で上司のPM1は「(将来息子にババアやおばはんと)絶対言われる」「いいババアになりそう」とMF2をからかう。この1、3行目では、1行目の後に2.0秒の間があったり、3行目の最初に「いいーいい」と言い直しが見られたりと、スムーズに産出されていない。からかいも「ババア」という言葉を使うに際して、産出しにくさが見られる。つまり、「ババア」という攻撃的な言葉を用いて、からかうことにためらいが見られる。それに対してMF2は「いいババア」を繰り返し、笑いを伴いながら「ありがとう」を2回繰り返し、PM1のからかいを受け入れている。ここでMF2は4行目の発話を笑いながら行っていることで、1、3行目をからかいだと理解していることが見て取れる。

そして、この繰り返しによる弱い受け入れの中でも、ただからかいの発話で用いられた言葉の一部を繰り返すだけでなく、語尾に逆接の「けど」が終助詞的にみられるものが、より弱い受け入れとなる。

断片5 (データ2)

LM3が酔って大変だった物語をPM1が語り、MM4がそんなには荒れないと弁解した後

- 01 PM1 : さー三回荒れるんでしょ?h
 ⇒02 MM4 : さー三回はですけど

断片5では上司のPM1が、LM3ほどはMM4が酔うことはないにしろ「三回荒れる」とからかいながら確認を求めている。それに対して、2行目でMM4は「三回」を繰り返し、語尾に「けど」を使っている。2行目の後に特にMM4からの発言はないが、「けど」を用いることでこの後に修正したいことがあるように感じられる。そのため、語尾に「けど」のようなものが来る場合は、より弱い受け入れとしている。

断片6 (データ2)

PM1がMM3のつけている時計についてかわいいと述べた後

- 01 PM1 : [じーGショックっぽい顔してるけどhh
 ⇒02 MM3 : h[まあGショックも好きっすけどh

断片6で上司のPM1はかわいい時計をしているとMM3に述べた後、1行目で「Gショックっぽい顔してるけど」とMM3の容姿に言及するからかいを行っている。それに対してMM3は2行目で「Gショック」を繰り返し、「Gショックも好きっす」と同調し、「けど」を加えている。

3.1.3 弱い受け入れ（一致の表示）

弱い受け入れのもう1つのパターンは、一致していることを表示することである。つまり、副詞の「そう」などを用いて、内容の通りであったり、あっていることを表したり、終助詞の「よ」や「ね」を用いて一致していることを表すことである。

断片7（データ6）

ミーティング後にMM6からの差し入れを食べている中、LM3が仕事の依頼にきた場面
の中での会話

- 01 DM1：((右手人差し指でLM3を指す))↑え、でも(.)あれだよ
02 ラグビーの(.)木村LM3((あだ名))に似てるよ
⇒03 LM3：h↑あ(h)れ(h)ですね

断片7で上司のDM1は、LM3が有名なラグビー選手と顔が似ているとLM3への指さしを行い、LM3をからかう。ここで1行目の冒頭の「え」の音調が急激に上がっており、遊戯性を帯びている。それに対してLM3は「あれ（有名なラグビー選手）ですね」とそのラグビー選手を認識していることを示し、からかいを受け入れている。

3.1.4 弱い受け入れ（非言語行動）

弱い受け入れの最後のタイプは、発話はないものの、頷くなどの非言語行動でからかいを受け入れるタイプである。

断片8（データ1）

社員がそれぞれウィークリーミーティングに参加するため席についている場面

- 01 PM1：こっちな、こっちこっち
02 (2.0)
→03 PM1：((MM2を見て左手で手招きする))¥怒ったりしないから、怒ったりしないからこっち¥
→04 MM5：怒ったりしないってh
→05 LF1：怒ったり(h)しない(h)からh
⇒06 MM2：((PM1が座っているソファのPM1の右隣に座る))

断片8で、PM1は自分の近くに座るようMM2に対して「怒ったりしないから、怒ったりしないからこっち」と命令をする。ただ、ここでは、笑顔や繰り返しから、それが深刻な命令ではないことがわかる。つまり、遊戯性が加わることで、命令を借用したからかいとなっている。すぐにMM5は「怒ったりしないって」と「怒ったりしない」を笑いを伴いながら繰り返し、LF1も発話中に笑いを伴いながら「怒ったりしない」を繰り返している。そこで発話はないが、MM2は6行目でPM1の隣に座るという行動を行っており、からかいを受け入れている。

断片9（データ1）

LM2の報告の中でIF1の作成した記事についての話題が上がり、IF1が誰であるかといった流れ

- 01 CM1 : ¥私ですって言って欲しいよ [ね((右手を挙げる))¥
 →02 DM1 : [¥そ, [立って立って立ってよちょっと¥
 →03 LF1 : [¥立って立ってhh
 →04 ((両手のひらを上にして上下に振る))¥
 →05 ??? : ↑おさむ氏
 06 複数 : hhhhh
 ⇒07 IF1 : ((恥ずかしそうに立って口に左手を当てて頷く))

インターンシップで働いているIF1が誰かという話題になり、CM1は1行目で「私ですって言ってほしい」と述べ、右手を挙げる動作をしてからかう。そこにDM1やLF1が、手を挙げるだけでなく立ってほしいと「立って」を繰り返す。ここで、1行目の「私ですって言って」や2、3行目の「立って」は単なる命令ではない。社員だけの全体ミーティングであり、IF1はインターンシップのため、この会議に参加していない。会議に参加していないにもかかわらず、皆の前に立つというのは攻撃性がある。しかし、CM1、DM1、LF1とそれぞれ皆、笑顔で述べていて、「私です」の「です」が強調されていたり、「立って」を何度も繰り返したりすることで遊戯性が強調され、からかいとなっている。それに対して7行目でIF1は何か話すことはしないが、恥ずかしそうに立って頷いている。

断片10（データ5）

LM3からの報告が終了後、DM1がMM7の営業成績について「すごい」と褒めていた流れのあと

- 01 PM1 : MM7((あだ名))とMM3の時代だよな
 02 MM3 : いえいえ. MM7[の時代です
 →03 PM1 : [LM4とLM3の時代は終わ↑りや((一瞬LM3を見る))
 ⇒04 LM4 : [((顔を右横に向けて)).hhhh
 ⇒05 LM3 : [((笑顔で2回ゆっくりうなづく))

断片10では、1行目でMM7とMM3の営業成績を褒め、3行目で上司のPM1は「LM4とLM3の時代は終わり」とLM4とLM3をからかう。ここで3行目の「終わりや」の「り」の音調が上がり、語尾に「や」が加わり、関東出身のPM1が普段話さない、関西弁のようなイントネーションとなっており、遊戯性が感じられる。それに対してLM4は笑いのみで答え、LM3は笑顔で2度頷いている。

3.2 拒否や訂正

本稿のデータでは、からかいに対する「拒否や訂正」といった対応が非優先的応答だと

思われる。なぜなら、Pomerantz (1984) 同様、遅延行為等の非優先的応答の特徴が、「拒否や訂正」においてみられるからである。以下の断片の中には、拒否や訂正ではなく、言い訳を述べたり、代替案を述べたりするものがある。Pomerantz (1984) で、このような言い訳や代替案を「非同意」にしていることから、本稿においても、「拒否や訂正」にしている。

3.2.1 遅延

まず、遅延の1つは、沈黙が見られることである。

断片11 (データ2)

芸人と女優の結婚についての話題の後

- 01 CM1 : す↑ごいね(0.8)夢あるよね
 →02 PM1 : 夢あるよね(1.2)ねえMM3°もし°
 ⇒03 (3.5)
 ⇒04 MM3 : ((同僚の名字))セットするって言ってたのに

芸人と女優の結婚に夢があると述べ、2行目で上司のPM1が「ねえMM3 (名字)」と未婚のMM3に向けて発言し、からかっている。それに対して3.5秒の間が見られる。3.5秒後にMM3は同僚の一人の名字を述べ、「(合コン等) セットするって言ってたのに (セットしてくれなかった)」と言い訳を述べている。

また、遅延は沈黙だけでなく、「はい？」や「え？」といった無限定の質問 (Drew 1997) などのような修復を開始することでも見られる。

断片12 (データ2)

筆者の前職についての話、A社の印象についての話が終わり、7.5秒の間が空いた後

- 01 CM1 : 前職の話(0.4)したらどう、
 ⇒02 (0.5)
 ⇒03 MM4 : はい？
 →04 CM1 : 前職の(h)話.hしたらhh
 ⇒05 MM4 : 自分の(h)-じぶんの(h)っすか、h
 06 MM3 : 無茶振りだ↑なha[hahaha
 07 MF1 : [hhh
 08 CM1 : いや、その流れでいった[ら
 09 MF1 : [hhh
 ⇒10 MM4 : [↑あ：あ(0.7)求人広告の会社で：
 11 (0.7)
 12 CM1 : アイ [ウエ((社名))でしょ？
 13 MM4 : [そ(.)そっすね

- 14 CM1 : なんでそれ, そこさ((MM4の前職の社名))ってhh
 ⇒15 MM4 : [あんまり言いたくないんですよね]

01行目で上司CM1は部下のMM4に対して「前職の話したらどう」と提案している。それに対して、02行目で0.5秒の沈黙があり、03行目で「はい?」と聞き返している。そして、04行目でCM1は01行目の提案を繰り返している。ただ、ここでは04行目の繰り返しから、CM1が03行目の「はい?」をどう聞いたかが示されている。04行目でCM1は内容的に何かを付け加えたり、置き換えたりすることなく、そのまま01行目を繰り返している。この提案のやり直しから、CM1は03行目の「はい?」をMM4が聞き取り上の問題を抱えていたと理解したことが示されている。ただ、04行目はただの繰り返しではなく、発話中に笑ったり、吸気音があったり、遊戯性が強調されている。つまり、04行目はただの提案ではなくからかいであり、01行目がからかいであることを明確にしている。そして、01行目はからかいとして認識可能な発話となっている。その後、05行目でもまだ遅延行為があり、MM4は「自分の(前職の話)っすか」と理解候補を提示している。そして一度10行目でからかいを受け入れ、求人広告の会社であったと答えている。しかし、14行目でCM1に社名で言わないのかと指摘され、15行目でMM4は「あんまり言いたくない」と拒否している。

断片13 (データ2)

ダイエットの話題が終わり20秒の間が空いた後

- 01 CM1 : >最近なんか(1.8)MF1さん
 02 静かなんだけど最近h
 ⇒03 MF1 : あ↑れ?h(0.9)最(h)近ですか?h(0.6)
 ⇒04 最初(0.6)も別にそんな騒がしくはないですよh

断片13で上司のCM1は1、2行目でMF1が最近静かだと笑いを伴いながらからかっている。ここで1行目の「最近なんか」の後に1.8秒の間があり、からかいにくさが見られる。つまり、「静か」だとかからかうことをためらっていると考えられる。それに対してMF1は「あれ?」と述べ、「最近ですか?」と「最近」という部分を繰り返しながら、確認を求めている。そして4行目で「最初も別にそんな騒がしくはない」と否定している。

遅延の最後のパターンは、「あー」や「えー」といったような引き伸ばしによる考えることをしている行為、及び、言い直しである。

断片14 (データ1)

ウィークリー会議のLM2による発表の中で、あるSNSでA社がヒカキンくらい再生されているためヒカキンと呼ばれているという話題で、本当に言われているか確認があったあと

- 01 CM3 : 阿部キン((視線はLM2))

- ⇒02 (0.4)
 →03 CM1 : ¥阿部↑キン?¥
 →04 LF1 : ¥阿部[キンhhhやばいなんか¥
 ⇒05 LM2 : [¥あ, あ, ↑あ, なんか巻き込むのやめて
 ⇒06 もらっていいっすかh¥((視線はCM3))
 07 複数 : 阿部キン[hhh

1行目で上司のCM3は「阿部キン」と笑顔や笑いはなく、LM2に視線が向いており、LM2に対して低い声でつぶやく。それに対してLM2の反応はすぐにはない。しかし、CM1が3行目で明確なコンテキスト化の合図であるニヤニヤした笑顔と音の調子の急な上昇を用いて「阿部キン」と繰り返し、4行目でLF1も笑いを伴いながら「阿部キン」と同じ発話を繰り返し、「やばい」と評価している。つまり、トラブル源である01行目の「阿部キン」と03、04行目で同じ発話を繰り返すという他者開始他者修復を行うことで、遊戯性に気づき、からかいが成立しているのである。そしてそのあと05、06行目でからかいの受け手であるLM2が「巻き込むのやめてもらっていいっすか」と笑いや笑顔を伴いながら返答していることから、7行目からの発話がからかいとして理解されている証拠となっている。そしてその返答の際に「あ」を3度言い直すという遅延が見られる。

断片15 (データ5)

TM1のトレーニー期間がもうすぐ終わるため、TM1からの一言を述べている中でTM1が会議の感想を述べたあと

- 01 LM4 : ¥> この会議の? ((驚いた表情)) <¥
 ⇒02 TM1 : はい?
 →03 LM4 : ¥この会議のhhhh¥
 ⇒04 TM1 : いや-いやあ:, すごくいいい, こういう会議があるんだな. っていう

TM1がトレーニー期間全体についての感想を述べるのかと思ったら、会議の感想を述べたことに対して1行目でLM4は「この会議の?」と驚いた表情でからかっている。それに対して2行目でTM1は「はい?」と聞き返し、3行目でLM4は全く同じ「この会議の」と1行目の発話を繰り返している。ただここで3行目の「この会議の」はただの繰り返しではなく、大きい笑いが含まれており、遊戯性が強調され、からかっていることが伝わる。それに対してTM1は、「いや」を言い直し、さらに「いやー」と引き伸ばし、前置きを発している。そしてその後に、からかいの原因となった、トレーニー期間全体についての感想を述べるのかと思ったら、会議の感想を述べたことに対する言い訳を行っている。

3.2.2 弱い拒否や訂正

ここで述べる弱い拒否や訂正とは、1度からかいを受け入れ、その後拒否や訂正を行うことである。からかいを部分的に受け入れたり、部分的に拒否や訂正を行ったりしているため、弱い拒否や訂正とする。

断片16 (データ1)

会議終了後、それぞれが退出する中で行われた会話.

- 01 DM1 : ㄥ↑さいきんなんかMM6((あだ名))くない? あれ(0.4)
 →02 ウィークリーMM6((名字))ㄥ
 ⇒03 MM6 : あ. ほんまや. ちょ
 04 ?? : [↑あ
 ⇒05 MM6 : [あ. あれ
 06 DM1 : hhh
 07 MM5 : ㄥばれた. みたいなhhㄥ=
 08 LF1 : =ㄥばれたhhㄥ
 ⇒09 MM6 : ら. 来週ぐらいからな°んか°ハウクリーダーをMM3が
 ⇒10 たぶん(0.7) [発表するとおもうんで

断片16の01行目でDM1は、週1度あるはずのMM6の発表が最近ないことの確認を求めている。この01行目は、MM6が発表を行っていないことを認識しているにもかかわらず、本人に確認を求めており、攻撃性を感じる。しかし、笑顔で「さいきん」の「さ」の音が急に上がって、あだ名を用いて確認を求めているところからも遊戯性が確認でき、からかっているとわかる。また、からかいの中に0.4秒の間があり、スムーズに産出されていなく、「ウィークリーMM6」についてからかうかためらっている様子が見える。それに対し、3行目でMM6は「ほんまや」と、とりあえずからかいを受け入れている。しかしその後5行目で「あれ」ととぼけ、考えることを口に出して行っている。そして、9行目でMM6は、「来週ぐらいからハウクリーダーをMM3がたぶん発表するとおもう」と「たぶん」と言っていることから、不確定な代替案を提示している。

断片17 (データ2)

DM1とサッカーの話をMM4はしたのかという話で、MM4がDM1に圧で勝てればするという発言の後

- 01 CM1 : h↑サッカーの話すりゃいいじゃん,
 →02 [サッカーのことを
 ⇒03 MM4 : [そうですねhたしかに. 切り口がまだできてなくてなんか.
 ⇒04 ちょ急にサッカーの話をしましょってなかなかいけなくて.
 ⇒05 って感じです

MM4がDM1に圧で勝てれば(サッカーの話を)すると言ったことに対して、上司のCM1は、「サッカーの話すりゃいい」とMM4をからかっている。1行目で「サッカーの話すりゃいいじゃん」の前に笑いから始まっており、これは単なる助言ではなく、笑うべきもの(Jefferson 1979)としてデザインされており、からかっていることがわかる。それに対して、MM4は最初「そうですね」と受け入れる。しかしすぐに、「切り口がまだできて

なくて、サッカーの話をしましよってなかなかいけない」と言い訳を述べている。

また、受け入れ後の拒否の形だけでなく、逆の、拒否したあとにからかいを受け入れて修正する形も見られる。

断片18（データ2）

MF1の夫がバーの店長であり、出会い等の話をしていた続き

→01 PM1 : ↑さけ飲みだよね．百パーセント

02 複数 : h[hhh

⇒03 MF1 : [↑なんでそんなにhh°お酒は好きです°

断片18で上司のPM1は部下のMF1を酒飲みだと断定するようなことを1行目で発する。この1行目は、「さけ」が強調され、「さ」の音が急に上がっていることから遊戯性が見られる。それに対して、MF1はすぐに「なんでそんなに」と否定する。そして「お酒は好きです」とからかいの内容に譲歩する言葉を発している。

3.2.3 やや強い拒否や訂正

やや強い拒否や訂正とは、これまで見てきた遅延行為やからかいを受け入れる部分が見られないものの、完全にからかいに対して否定しているか曖昧なものとなっている。例えば、拒否や否定を表す「いや」や「いえ」だけを述べたり、直接否定はしておらず、訂正だけしたりしているものである。

断片19（データ5）

TM1のトレーニー期間がもうすぐ終わるため、TM1からの一言を述べている中で

→01 DM1 : ¥口（（左手をくの字にしてスナップ））だけはうまい

→02 から↑な::[haha¥

03 複数 : [hhh

⇒04 TM1 : ¥いえい[え¥

断片19は、ウィークリーミーティングの最後の方にみられた会話である。TM1のトレーニー期間が終わり間近となり、TM1がトレーニー期間についてコメントしている場面である。1行目で上司のDM1はTM1のことを「口だけはうまい」とからかう。この1行目のDM1による「口だけはうまいからな」の行為は、「不平・不満」ではなく、「口」を強調して言っていたり、その際「口」を表現したりするような、左手をくの字にしてスナップするという非言語行動が見られる。また、「笑い、笑顔」、「な」の音の急な上昇、「な」の音の引き伸ばしなどの様々な遊戯性を表すコンテキスト化の合図（Gumperz1982）から「からかい」であることがわかる。それに対してTM1は「いえいえ」と軽く否定して答えている。

断片20（データ3）

CM2の母親が友達にも厳しいという話の中で、CM2が母親が外面はすごくいいという発言をしたあと

→01 MF2 : でも蹴るんですよhh

→02 PM1 : hh外面よくなかね

03 複数 : hhhh

⇒04 CM2 : hあの友達 [の

05 PM1 : [° 仲いい人°

⇒06 CM2 : 子供の友達とかどうでもいいじゃないですか。大人のその外見とかを

CM2の母親が友達にも厳しく、友達を蹴ったりするといった話の中で、CM2は「でもそとづらはすごくいい」と発言する。それに対して、MF2が「でも蹴るんですよ」と笑いを伴いながら指摘する。それに続き上司のPM1も「外面よくなかね」とCM2をからかう。それに対して、否定はしていないが、ただ訂正だけ4行目と6行目で行っている。

3.2.4 強い拒否や訂正

「拒否や訂正」の最後のパターンは、強い拒否や訂正である。これは、これまで述べてきた「はい？」などの無限定の質問等で修復をしたり、沈黙したりするといったような遅延行為が見られない。また、からかいを受け入れてから拒否したりするようなことなく、最初の反応がからかいの内容と対照的な否定や拒否となっている。

断片21（データ2）

MF2とMM2からMM4が「真面目キャラではないと言っていた」と発言したあと

→01 PM1 : ↑真面目じゃないの？

02 複数 : hhhh

⇒03 MM4 : いや、すごい真面目で

断片21では、上司のPM1は「(MM4が) 真面目ではない」のか確認を求めている。それに対して3行目でMM4は「いや」と否定の前置きをし、「すごい真面目」だと「すごい」も付加され、アップグレードし、強く否定している。

断片22（データ3）

MF2が自分の息子を甘やかしているから、すごく甘えん坊になりそうといった発言のあと

→01 PM1 : ((MF2に向かってニヤニヤしながら))>いやくでもいつか

02 裏切られるから

⇒03 MF2 : ((上半身を軽く後ろに反らせる))h↑なんでそういうこというの、hhh

断片22で上司のPM1は息子が可愛くて甘やかしていても、「いつか裏切られる」とMF2をからかう。01行目でPM1はニヤニヤしながらMF2を見て言っており、遊戯性が観察され、からかいであることがわかる。それに対してMF2は即座に「なんでそういう事言うの」と拒否している。

断片23（データ3）

LM1の母親が大学の教授であるという発言のあと

→01 PM1：¥教授って呼ばないの？教授つってhh¥

⇒02 LM1：¥いや、よばないっすhhそういう間柄じゃないっすhh¥

上司のPM1は母親が大学の教授であるLM1に「教授つって（呼ばないの）」と言ひ、からかう。この1行目の「教授って呼ばないの」は質問の形式をとったからかいであることは、笑顔で言われていることや笑いが含まれていることから、理解可能となる。それに対し、LM1は即座に「いや」と否定し、「呼ばないの」に対して「よばない」と否定している。

断片24（データ5）

CM3が面接を担当するとき、全然面白くないとPM1が話している流れ

→01 PM1：え、なんかさ、ここで食べるときめっちゃ面白いけどさ(.)

→02 ¥面接のときちょっと面白くない¥

⇒03 CM3：<こらこらこらこら、真面目に話してるんだから>

この断片の前にPM1は、「(CM3が) 面接のとき全然面白くない」とからかっている。そして1行目で再びPM1は「面接のときちょっとおもしろくない」と「全然」から「ちょっと」にダウングレードして、からかいを繰り返している。それに対しCM3は「こら」を繰り返し、からかいを拒否している。

4. 考察

まずデータについて考察を行う。分析の結果、組織上の特徴を見ると、からかいに対して「受け入れる」が優先的応答で、「拒否や訂正」が非優先的応答であると考えられる。つまり、「受け入れ」は端的になされている。それに対して、「強い拒否や訂正」は非優先的応答の特徴はないが、それ以外の「拒否や訂正」は、沈黙であったり、最初からからかいを受け入れてから、拒否するなど、拒否や訂正そのものがすぐに出現しなかったりと、長くなりがちである。しかし、この結果は上司と部下という関係性に限定していると思われる。つまり、同期のような同僚からのからかいであったり、部下からのからかいには、Drew (1987) や千々岩 (2013) 同様、「拒否や訂正」が優先的応答であると思われる。以下の断片を見ていただきたい。断片25は断片6の前後の会話である。

断片25（データ2）

CM1の家族のために働くようになったという話が終わり、1秒の間の後

- 01 PM1 : へ：意外とかわいい時計すんだね
 02 MM3 : そうなんすよ、ちょっ[ギャップ
 →03 PM1 : [じーGショックっぽい顔してるけどhh
 ⇒04 MM3 : h[まあGショックも好きっすけどh
 05 MM1 : [Gショックっぽい顔hh
 06 複数 : hh
 07 PM1 : うんかわいいかわいい。意外とおしゃれだよ
 08 MM3 : いえいえ、それはないですけど。うん。
 →09 MM4 : hちゃんとでも時計してるんですね、
 ⇒10 MM3 : いや、普通でしょ
 11 複数 : hhhh

断片25で上司のPM1の3行目のからかいに対して、MM3は、「Gショックも好きっす」とからかいを受け入れているのに対し、同じ職階ではあるものの後輩のMM4（在職期間としてはMM3の方が先輩²⁾）からの9行目のからかいには、10行目で「いや、普通でしょ」と強く拒否している。この時9行目は笑ってから、「ちゃんとでも時計してるんですね」と述べることで、笑うべきものとしてデザインされ、からかいであることがわかる。

断片26（データ5）

LM3とMM7と一緒に外訪中、MF2とLM3が会社外で偶然出会ったことについて話した後

- 01 LM3 : MM7があせってました。な↑んでなんばしてるんですかってh
 02 複数 : hhhh[h
 03 LM3 : [渋谷駅のhエスカレーターでh
 04 MM7 : 焦りましたねhhはい。
 05 MF2 : そうだよな、急に[なんだよって感じだよなhh
 06 LM3 : [焦りようがすごくてh
 07 複数 : hhh
 →08 LM4 : ¥訪問帰りにナンパ(.)よくやることっすか？hh¥
 ⇒09 LM3 : ¥なんで、hおかしいだろh¥
 10 : (1.5)
 →11 LM2 : その顔で？h=
 ⇒12 LM3 : ¥いや(h)ちょっと待ってくださいhh¥
 13 ?? : <h
 ⇒14 LM3 : ¥もういいじゃないっすかh¥
 15 複数 : hhh

断片26では、同じ職階ではあるが、年下のLM4³⁾からの8行目のからかいに対しては、

LM3は即座に否定しているが、年上のLM2からの11行目のからかいに対しては、すぐに14行目の拒否が出てくるのではなく、12行目で遅延行為が見られる。ここで8行目は「ナンパ」という言葉自体がネガティブなニュアンスがあり、笑いや笑顔で言っていることから、単なる質問ではなく、からかいであることが理解可能となる。さらに11行目の「その顔で」という質問も、容姿に言及するという攻撃的な要素と笑いとそのまえのからかいの流れを汲んでいることから、こちらもからかっていることがわかる。

また、上司のからかいに対して非優先的応答でも最も言いづらいと思われる「強い拒否や訂正」はどのような場合に起こるのであろうか。結果から4つのことが考えられる。

(1) からかいの内容が受け入れ難い場合

例えば、断片21の場合、「真面目ではない」ということで部下にとって受け入れがたいため、すぐに否定をする。また、断片23だと、自分の母親を教授とよんでいる事実が受け入れがたいため、強く否定していると考えられる。

(2) 親疎関係による強い拒否や訂正が可能な場合

断片22でMF2は社長のPM1のからかいに対して、「なんでそういうこというの」すぐに拒否している。MF2は単純な部下ではなく、PM1と中学時代の同級生であり、仲のいい友人である。また、断片25のCM3は上司のからかいに対して、「こらこらこらこら、真面目に話してるんだから」と拒否しているが、CM3はPM1より年上であり、PM1が起業する前からの知り合いである。

(3) 職場における場面の違い

強い拒否や訂正が見られた断片21～24はすべてランチや会議前の雑談での会話であり、会議中の会話では見られなかった。会議中で見られた拒否や訂正は、断片19の「いえいえ」という軽い否定の形だけである。つまり、会議というのは時間が決まっており、その中で話し合わなければいけない事項が存在する。そのため、非優先的応答の場合は長くなりがちであるため、優先的応答のからかいを受け入れる答え方が好まれるということが考えられるのである。

(4) からかいの第一部分の優先性

断片4や6のように上司のからかいに対して部下が受け入れる場合などでは、第一部分であるからかい発話自体に間があったり、言い淀みがあったり、言いにくさを感じるからかいが見られる。つまり上司がからかう際にためらいが見られる。しかし、強い拒否や訂正が見られた断片21～24のからかい発話はどれも遅延や曖昧さなどの非優先性が見られない。つまり、上司のからかいにやりにくさが見られる場合、部下の応答は上司に配慮して「受け入れる」場合が多いのではないと思われる。

5. 結論

本稿では、日本の職場における上司のからかいに対する部下の応答を分析した。その結果、上司のからかいに対して部下が受け入れる場合、一緒に楽しんで同調したり、からかいで用いられた言葉を繰り返したり、「そう」などを用いて受け入れたり、頷くなどの非言語行動を用いていた。また、上司のからかいに対して部下が「拒否や訂正」を行う場合、沈黙や「はい？」といった聞き返し、「あー」などの考える行為、一度受け入れた後に、拒否や訂正を行ったり、「いえ」などの短い形での否定、からかいの内容と対照的な強い

拒否や訂正を行ったりするといった特徴が見られた。そして、構造上、「受け入れ」の場合、からかいに対して間をあけず発話されていたのに対して、「拒否や訂正」の場合、前置きがあったり、一度受け入れたりするため、応答が長くなりがちであった。つまり、日本の職場における上司のからかいに対する部下の応答としては「受け入れ」が優先的応答で、「拒否や訂正」が非優先的応答であると論じた。そして、この特徴から、職場における会話では、上司部下であることに志向していることがみられた。

ただ、考察の(2)人によって強い拒否や訂正が可能な場合でみたように、上司部下の中には、友人関係等の親疎関係が関わっていたり、断片27で見た、同じ職階だが、年齢の上下による敬語を用いるような先輩、後輩の上下関係も含まれていたりする。今後、からかいの中でからかい手、からかいの受け手、お互いがお互いをどのように位置づけているかという点から分析する必要がある。さらに、からかい自体のタイプの違いによって応答が変わってくるのかも今後検討が必要である。また、本稿では、からかいに対する応答を分類することを中心に事例を紹介したが、今後ひとつひとつをより詳細に記述していく必要がある。

参考文献

- 千々岩宏晃 (2013). 「[からかい]」の相互行為的達成: 「あなたに関する知識」を用いた発話の一用法
『日本語・日本文化研究』第23号 pp. 129-141
- Drew, P. (1987). Po-face receipt of teases. *Linguistics* 25. pp. 219-253.
- Drew, P. (1997). 'Open' class repair initiators in response to sequential sources of troubles in conversation, *Journal of Pragmatics*, 28(1). pp. 69-101.
- Gumperz, J.J. (1982). *Discourse strategies*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Jefferson, G. (1979). A technique for inviting laughter and its subsequent acceptance/declination. In G. Psahas (ed.) *Everyday language: Studies in ethnomethodology*. pp. 79-96. (New York: Irvington) Publishers.
- Pomerantz, A. (1978). Compliment responses: Notes on the cooperation of multiple constraints. In J. Schenkein (ed.) *Studies in the organization of conversational interaction*. pp. 79-112. New York: Academic Press.
- Pomerantz, A. (1984). Agreeing and disagreeing with assessment: Some features of preferred/dispreferred turn shapes. In J.M. Atkinson and J. Heritage (eds.), *Structures of social action: Studies in conversation analysis*. pp. 57-101. Cambridge: Cambridge University Press.

文字化記号

音の重なり	[]
発話の密着	=
0.2秒以下の短い間	(.)
0.2秒より長い間	(実際の秒数)
語尾の音調が下がっている場合	.
音が少し上がって弾みがついていて続きがあることを予測させる場合	,
語尾の音が上がっている場合	?
音の引き伸ばし	:
— 音の強調	—
音量の小ささ	°

言い直し・言いかけによる音の途切れ	—
音の調子の急な下降	↓
音の調子の急な上昇	↑
他の部分より目立って速いスピードで発話された部分	> <
目立って遅いスピードで発話された部分	< >
笑い顔でなされる発話	¥
呼気音	h
吸気音	.h
笑いながら産出される発話	(h)
話しながらでない笑い	hh .hh
ノンバーバル要素の発話	(())

-
- 1) 調査前にA社の調査協力者全員から承諾書のサインや押捺等をいただいた。
 - 2) 二人の間で使用するスタイルが違いことから、同じ職階ながらMM3が先輩でMM4が後輩であることがわかる。
 - 3) ここでも二人の間で使用するスタイルが違いことから、同じ職階ながらLM3が先輩でLM4が後輩であることがわかる。